

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2020. VOLUME.129

12

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、
この先も共に

「カッコいい農業」発信!!



俺たちが未来へつなげる!

特集 JA十和田おいらせの
一年を振り返る



JAは地域社会の課題解決とともに、SDGsの実現へ貢献していきます。

ごいぬプロジェクト

腕 じ ま ん

地域じまんのモノ語り

「あおもりだし物語」収録
～ナガイモとゴボウ農家を訪問～

青森県の企画、制作ABA青森朝日放送のテレビ番組「あおもりだし物語」(来年1月から放送)の収録が11月3日、七戸町と十和田市で行われました。料理研究家の大原千鶴さん=京都市在住が、七戸町の寺澤和夫さんのナガイモ畑と、十和田市の甲田一博さんのゴボウ畑を訪れ、収穫体験し素材を活かした料理を紹介しました。

大原さんは、NHKの料理番組「きょうの料理」に出演しているほか、数々の料理本を出版。同月5日には、青森県から「だし活+だす活アンバサダー」の委嘱状が交付されています。青森県産食材をよく料理に使用していると話す大原さんは「食を通じ青森県の豊かさを感じる。流通が便利になって青森の食材が身近なものになっている」と話していました。



▲ゴボウの特徴を説明する農家の甲田さん (写真右から2番目)

ナガイモについては「みずみずしく食感が良い。さらっと体に入る」と話し、ゴボウは「風味がよく、肉と卵を加えゴボウの柳川風も絶品」と、感想を述べていました。

放送ではナガイモの肉巻き照り焼き、ごぼう柳川風の料理などが紹介される予定です。



▲掘りたてのナガイモを手に産地をPRする農家の寺澤さん (写真左)

同番組の放送予定日
2021年1月13日～3月24日
毎週水曜日 23:10～23:15(計11回)
甲田さんは3/3、寺澤さんは3/10放送予定です。
※報道ステーション後



▲ナガイモ畑をバックに料理を試食する寺澤さん家族



▲ナガイモの肉巻き照り焼きを作る大原さん

公式Facebook
JA十和田おいらせ

■令和2年12月9日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市内十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ http://www.jatowada-o.or.jp ■Email/soomu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷



「カッコイイ農業」発信 俺たちが未来へつなげる!

青年部本部役員は11/15、十和田市相坂で、農業のイメージアップに向けたポスター作成の写真撮影に臨みました。JA全青協主催の「オリジナルワークウェア ポスターコンクール」に出品予定で、「農業の魅力を『カッコ良さ』で表現し、国民へアピールする」ことをテーマとしています。盟友たちは、JA全青協オリジナルワークウェア「リー・ジャパン」のつなぎを着て勢ぞろい。それぞれ、①作付面積、②ポスター作りに向けた農業への想いを聞いてみました。



青年部長/上北支部
佐々木 祐輔さん(36)

- ① 水稻/ハウスアスパラガス ニンニク/ナガイモ
- ② 人や地域とのつながりが、自分自身を育ててくれました。「JA十和田おいらせには、こんな熱い奴がいるんだ地域農業は任せろ!」という熱い情熱を伝え、農業と地域を発展させていきたいです。



県役員/藤坂支部
平館 龍徳さん(38)

- ① 水稻/長ネギ/ニンニク/ゴボウ
- ② 国民の食卓を作り、地域の文化を守る職に就いている事を誇りに思っています。先人たちが開拓したこの大地を我々青年部の仲間を守り、明るい農業と地域の未来を創っていきたいです。



副部長/三本木支部
土嶺 要さん(40)、千華ちゃん(1)

- ① 種子用米/長ネギ/ニンニク
- ② 作物の特性を理解し、食味と作業効率の向上に力を入れています。今後は規格外となった野菜に付加価値をつけた商品販売にも挑戦していきたいです。仲間の大切さや地域の絆の強さ、農業への想いを子どもたちにつないでいきたいです。



副部長/藤坂支部
工藤 康広さん(36)

- ① 水稻/大豆/ソバ
- ② 育苗用黒土販売、配達
- ③ 食文化を支える、なくてはならない職業に携わっていることに誇りを持っています。農業の「カッコいい!」を発信し、青年部の活動や農業というものを幅広くアピールするきっかけにしていきたいです。

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.99

けいしょうびと

継 承 × 人



監事/十和田湖支部
小林 正和さん(41)

- ① 水稻/ニンニク
- ② 日本の農業・農作物の魅力を消費者や、これからの若者に伝えられるような農業をしていきたいです。農業は「楽しそう!」「面白そう!」「やってみたい」そう感じてほしいです。



委員/藤坂支部
附田 健さん(38)

- ① 水稻/麦/ニンニク/ソバ
- ② いずれは父の農業を継ぎます。人と人の結び付きを強め、地域や伝統行事を守り、発展させていくことが我々の使命だと思います。ここには、農業を受け継ぐ若者がたくさんいるということを発信していきたいです。



委員/三本木支部
上明戸 好一さん(38)、玲音くん(8)

- ① 水稻/リンゴ/ブルーベリー
- ② 作物の食味を高めるため、日々、勉強しています。農業の魅力を子どもたちに伝え、未来の農業者の増加につなげていきたいです。



藤坂支部長/藤坂支部
野崎 智洋さん(34)

- ① ニンニク/ナガイモ/ゴボウ/水稻 イングン
- ② 作物が日々成長していく過程を観察し、子どもたちと喜びを分かちあっている時が最高にうれしいです。農業者の高齢化が進むなか、やる気のある若者たちが頑張っていることを伝えたいです。



もくじ contents

あぐれっしゅ vol.129
12
(師走・しわす)

特集① 4~7p

JA十和田おいらせの
一年を振り返る

継承人 3p

NEWS&TOPIC
地域の話題 8~10p

あぐれっしゅ情報① 11p

あぐれっしゅ情報② 12p

ふれあい広場
頭の体操 パズル? 13p

informa 100
..... 14p

腕じまん
地域じまんのモノ語り 16p
青森県企画「あおりだし物語」TV収録

JAの概況 令和2年12月1日現在
正組合員数/6,445人
准組合員数/5,308人
役員数/278人
職員数(准職・嘱託含)/26人
貯金高/828億2,880万円
貸出高/182億1,095万円

告知版・金融部

ファーマーズ・マーケット
かだあ~れ OPEN 記念
定期貯金キャンペーン
抽選で、「かだあ~れポイントカード」のポイントが当たる!!
期間:令和2年12月1日(火)~令和3年1月29日(金)

1等...1万円分のポイント× 75本
2等...5千円分のポイント×150本
3等...3千円分のポイント×300本
※募集金額50億円に対して
詳しくは金融窓口までお問い合わせください

ローン相談会 毎月第3日曜日
(本支店のご案内) 9:00~16:00

12月20日 相談会場
本店、もいし支店
下田支店・上北支店
むつ支店の5店舗

1月17日 相談会場
本店、もいし支店
下田支店・七戸支店
むつ支店の5店舗

農業機械・農業に関わる
設備資金等の相談も承ります。
各種ローンを取り扱っております。
会社員の方、自営業の方、JAとのお取引
がない方もお気軽にご相談ください。
各種ローンがネットで仮申込みできます。
申込み方法は「JAネットローン」で検索!!

特集



JA十和田おいらせの一年を振り返る

東京オリンピックイヤーとして、華々しく幕開けした2020年。新型コロナウイルスの世界的な流行により、私たちの社会や暮らしが一変。マスク不足、テレワーク、飲食店等の時短営業、イベントの自粛など、コロナ感染拡大防止へ様々な対応を迫られた一年でした。今回の特集では、広報誌から主要な出来事をピックアップし、JA十和田おいらせの一年(1月~11月)を振り返ります。

1月
合併10周年
仲間と共に産地振興
〜若手農業者パワーアップ大会〜

25・26日
米「まっしぐら」好評、
「トンド野菜」
「TOM・VEGETABLES」PR
〜愛知県での青森県フェアに参加〜

17~19日**2月**
総代の役割字ぶ
〜初の総代研修会〜



27日
緑グリーンソウル十和田市が
収益力強化で大賞
〜青森県攻めの農林水産賞〜

畑作、水稻を含む作付け面積は92ヘクタールで、大型機械・施設の導入や効率的な農地集約などにより、設立当初に比べ売上高が11倍の伸びを示したことが評価されました。

1日**6月**
契約加工用トマト
試験栽培スタート
〜横浜町で産地化めざす〜



10日
「まっしぐら」へ
通じ地域、仲間と絆
〜小川真利子さん(千和田選)が
最高位の優秀賞受賞、県JA女性
組織協議会組織活動「コンクール」

26日
10期連続黒字決算
〜当期剰余金
2億6千4百万円を計上〜

26日
販売事業の販売高は1.69億円
(買取販売含)で、野菜販売が7億9085万円と、計画より20億円以上落ち込んだ一方、米は43億6510万円、畜産が49億7416万円と計画を上回り、10期連続の黒字決算となりました。

26日
新組合長に畠山一男氏
〜新執行体制決まる
第10回通常総代会〜



16日
新型コロナウイルス
感染拡大防止へ
〜アクリルパネル設置
各種イベントも自粛〜

政府は、全国に緊急事態宣言を発令。全世帯への布マスク無料配布や不要不急の外出自粛で感染拡大の防止へ。当JAでは本支店の窓口に飛沫感染防止用のアクリルパネルを設置。職員に対する毎朝の検温、行動や来訪者の記録簿への記入など危機管理体制を徹底。当面の各種イベントも自粛。

29日**5月**
肥育牛農家を支援します！
〜黒毛和牛枝肉低送に対する
支援対策に総額2500万円〜



新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業の低迷などから、黒毛和牛の枝肉販売価格がかなり購入価格を下回る状況に、JA独自対策として販売牛1頭当たり5万円(出荷予定頭数4500頭)を支援。

26日
「まっしぐら」初の特A獲得
〜農家の努力実る、
「品質PRへ弾み〜



日本穀物検定協会が公表した2019年産米の食味ランキングで、「県産米まっしぐら」が初めて特Aの評価を受けました。

30日**3月**
農家支援に総額2.4億円
〜農業経営の維持、
再生産の意欲向上へ〜

野菜価格低迷に伴う農家支援として、総額2.4億円を支払い、令和2年産の肥料購入代金の助成・トラクター作業機械の導入助成、肥料ランク奨励金やさい集荷対策金など。

1日**4月**
施設屋内(本・支店)は
原則禁煙に
分煙を義務化する改正健康増進法が1日から全面施行。



2020年農業・農政重大ニュース

日本農業新聞
東北支所 次長 原尻大志

8月

10日 TVリモート出演で野菜紹介
〜首都圏での宣伝に新手法〜

「コロナ禍で首都圏での宣伝活動が制限されるなか、JA会議室内に仮スタジオを設置し、JA職員がテレビ埼玉の生放送番組においしさを「こまいスター」にリモート出演。」

24日 感染しない、させない
〜サーマルカメラで瞬時に検温〜

本支店、野菜センターなど計12カ所にサーマルカメラを設置。

下旬 手洗いしつかりしてね
〜新型コロナウイルス感染拡大の防止へ〜

JA共済の地域貢献活動の一環として、当JAでは管内7カ所の保育園・幼稚園にハンドソープと消毒用スプレーのセットを寄贈。



8.9月

「コロナ禍でのあらたな販売戦略」
〜青果市場、米卸業者らと初のウエブ会議〜

JA本店で首都圏の青果市場や関東・中央の米卸業社とネットをつないだウエブ会議を実施。県外での販売要請が厳しいなか、顔の見えない新たな販売戦略として始動しました。



17日

新葬祭ホール
「まごころホールおいらせ下田」
完成
〜おいらせ町役場本庁舎前〜
9/200オープン〜



(株)協同サービスとして3棟目となる新葬祭ホールが完成。隣接して宿泊棟2室、ご遺体安置室1室を構え、家族葬など少人数の通夜・葬儀にも対応しています。

10月

おいしさをいっぱい！
ファーマーズマーケット
「かだあ〜れ」オープン
〜地産地消の拠点に〜

十和田市三本木里ノ沢に完成。売り場面積は東北最大級の規模で、出荷会員のとれたて野菜のほか、精米、精肉、鮮魚、ペーカリー、JAブランド品と地元産ならではの食材を揃えています。

17-18日

秋晴れに笑顔広がる
〜万全対策でJA収穫祭開催〜

ファーマーズマーケット「かだあ〜れ」の駐車場でJA収穫祭を開催。観覧席や食事席は一定の距離を保ち、入場の際には来場者のマスク着用、検温、手消毒などを徹底し、2日間延べ6千人が訪れ、食の屋台や歌、踊りなどを楽しみました。

下旬

Web会議用システム環境整備
〜高画質、高音質で鮮明な情報発信〜

50.65インチの大形テレビに超広角ワイドレンズカメラとスピーカーをつけ、より鮮明な画質と音声での配信が可能になりました。農畜産物の商談や食農教育など汎用性を高めています。

基本計画を閣議決定
政府は今後10年間の農政の指針となる新たな食料・農業・農村基本計画を閣議決定した。農業を次世代に継承するため、規模の大小や条件に関わらず「生産基盤を強化していく」と明記。規模拡大に偏重していた農政からの脱却を鮮明にした。新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、労働力確保や需要喚起などの対策を講じていく方針を示した。

新型コロナウイルス禍で緊急事態を宣言
安倍晋三首相は東京など7都府県を対象とする緊急事態宣言を発令した。感染拡大による医療体制の逼迫（ひっばく）の懸念から宣言が不可欠と判断。期間は4月7日から5月6日までの1カ月間。農家は従来と同様に農作業や出荷ができる。食料の生産・流通はこれまで通り続く。

菅内閣が発足
自民党の菅義偉総裁(71)が第99代首相に指名された。農相には同党参院議員の野上浩太郎元官房副長官(53)を起用した。初入閣となる。国政で農林関係の要職経験はないが、菅首相は自身や安倍政権を副長官として支えた実務能力を評価したとみられる。野上農相に、輸出拡大や農政改革の推進を指示した。

改正卸売市場法施行
改正卸売市場法が施行された。中央卸売市場の取引規制は緩和し、市場間の競争は激しさを増す。各地域の中小規模の卸は、地場産地との関係構築や卸同士との連携を急ぐ。事業の自由度が増した卸による商圏獲得と集荷力競争が激しくなる中、市場として存在感を出せるのか各社模索する。卸売市場が生き残りを懸けた対策に動きだした。

東京五輪パラリンピック延期
新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を受けて、東京五輪パラリンピックの1年程度の延期が決まった。農産物の供給を目指してきた農家や農業高校は、作付け変更などに不安な胸の内を明かす。聖火ランナーとして準備してきた農家や、バンパウンド（訪日外国人）需要の拡大を期待する産地からは、困惑や嘆きの声が上がっている。



11月

消費者と農家を支援
〜町とJA共催、トライプスルーで配付〜

3千円相当(15キロ)の農産物詰め合わせセットを千円で販売。



16日

新設カントリー工事安全祈願祭
〜十和田市稲吉に建設、令和4年秋から稼働〜

JA管内の米施設集約化により作業の効率化、高品質米の安定出荷を図り農家所得の増大を目指します。(A8)記事掲載



バイデン氏勝利
米国大統領選は民主党のバイデン前副大統領(77)が勝利を確実にした。米国農業団体は、公正な市場で競争できるよう、貿易と市場の拡大に優先的に取り組むよう求める声明を早くも発表。対日外交では、環太平洋連携協定(TPP)への復帰や、日米貿易協定の追加交渉などが焦点となる。

香川県鳥インフルエンザ発生
高病原性鳥インフルエンザが香川県の養鶏場で相次いで発生した。家禽(かき)ではおよそ3年ぶりの発生で、11月上旬の発生は過去に例のない早さだ。農場の防疫対策では、病原体を①持ち込まない②広げない③持ち出さないが原則だ。鳥インフルエンザの封じ込めへまん延防止対策に関係者一丸で早期に取り組み必要がある。

7月豪雨で農林被害2千億円超
7月の豪雨による全国の農林水産関係の被害額が2074億円を超えた。自然災害による年間の被害額が2000億円を超えるのは2016年以降、5年連続。被害は東京と沖縄を除く45道府県の広い範囲に及び、農作物や家畜の被害に加えて、ハウスやため池の損壊なども相次いだ。